

大切な注意です。取扱説明書も併せて必ずお読み下さい。

インスリン グラルギン BS注ミリオペン「リリー」を注射される方へ

◎ 危険な低血糖を起こすことがあります。

予防と処置法に十分注意して下さい。この注意は必ず家族やまわりの方にも知らせておいて下さい。

◎ あなたの主治医は、どの種類のインスリン製剤を、どれだけの量、いつ注射するか指示します。

これはあなたの症状に合わせて決められたものです。あなたの糖尿病を正しくコントロールするために、主治医の指示を正しく守り、定期的に診察を受けて下さい。

◎ 何か体の調子がいつもと違うことに気がいたら、すぐに主治医に相談して下さい。

◎ インスリン グラルギン BS注ミリオペン「リリー」(以下、本剤又はミリオペン) 以外のインスリン製剤を併用される方は、そのインスリン製剤に添付されている注意文書を必ずお読み下さい。

◎ 本剤及び注射針は他人と共用しないで下さい(感染の原因になるおそれがあります)。

1. 指定されたインスリン製剤をお使い下さい。

本剤は、1mL100単位のインスリン製剤が3 mL入ったカートリッジをあらかじめ装填した製剤です。JIS T 3226-2に準拠したA型専用注射針との組み合わせで使用して下さい。[ミリオペンはA型専用注射針との適合性の確認を BD マイクロファインプラス及びナノパスニードルで行っています。] なお、A型専用注射針との装着時に液漏れ等があった場合の対処方法は、主治医に相談して下さい。インスリン製剤には効果のあらわれる速さや持続時間の違ったいろいろな種類のものがあります。本剤は血液中のインスリン濃度を約24時間、ほぼ一定に保つように作られています。あなたの症状に最も適した製剤が処方されていますので、自分の使っているインスリン製剤の名前と自分に必要な量は何単位とはっきりおぼえておいて下さい。主治医の指示なしに他の種類の製剤を使用してはいけません。

毎回使用する前に、必ずラベルを見て薬の名前を確認して下さい。本剤は無色澄明な液剤であるため、見かけが同じである速効型又は超速効型インスリン製剤と間違えないで下さい。

2. インスリン グラルギン BS注ミリオペン「リリー」の保存方法

- (1) 未使用のミリオペン製剤は、冷蔵庫内に食物等とは区別して包装箱に入れるなど清潔にして保存して下さい。
 - ・凍らせてはいけません(フリーザーの中には入れないで下さい)。
 - ・旅行等に際して短期間ならば室温に置いて

てもさしつかえありません。

- (2) 使用中はミリオペン製剤を冷蔵庫に入れないで下さい。
- (3) 直射日光の当たるところ、自動車内等の高温になるおそれのあるところには置かないようにして下さい。
- (4) 外箱及びミリオペン製剤に表示してある使用期限を過ぎた注射液は使用しないで下さい。

3. 正しい注射方法

- (1) 注射時刻、注射手技等の方法については、主治医の指導をよく受け、正しく注射して下さい。本剤の使用に際しては、取扱説明書をよく読んで下さい。注射針は必ず毎回新しいものに替えて下さい。
- (2) 注射する前には手指を石鹸でよく洗って下さい。注射針をつける前にアルコール綿でミリオペン製剤のゴム栓をていねいに拭いて下さい。インスリン残量を超えての単位設定ができませんので、そのときは新しいミリオペン製剤に取り替えるか、設定できる単位までを注射してから取り替えて下さい。
- (3) 静脈内に投与しないで下さい。なお、注射針が血管内に入ったかどうかを確認することはできませんので、後述の4.(3)に示す点に留意して下さい。

4. 低血糖について

インスリン製剤の注射量が多過ぎたり、医師によって指示された時間に食事をとらなかったり、いつもより激しく運動したりすると低血糖が起こることがあります。

(1) 低血糖とは

血液中の糖分が少なくなりすぎた状態で、急

に強い異常な空腹感、力のぬけた感じ、発汗、手足のふるえ、眼のちらつき等が起こったり、また頭が痛かったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、いつもと人柄の違ったような異常な行動をとることもあります。空腹時に起こり、食物を食べると急に良くなるのが特徴です。はなはだしい場合にはけいれんを起こしたり意識を失うこともあります。低血糖は危険な状態ですから、起こらないように注意し、もし起こったら、軽いうちに治してしまわなければなりません。

なお、低血糖が起きていることを本人が気づかなかったり、わからなかったりすることがありますので家族やまわりの方もいっしょに注意して下さい。

(2) 低血糖の予防には

- 1) インスリン製剤の種類、量、注射の時刻についての主治医の指導を正しく守って下さい。勝手に種類、量、注射の時刻を変えるような自己流のやり方は危険です。
- 2) 食事をみだりに減じたり、抜いたりしないよう食事療法はきちんと守ることが大切です。酒の飲みすぎ、激しい運動、下痢等は、低血糖を起こしやすいので注意して下さい。食事がとれないときは主治医に連絡してその指示を受けて下さい。
- 3) 薬の中には、いっしょに使うと低血糖を起こすものがあります。何か別の薬を使うときには主治医に相談して下さい。他の医師に何か薬を処方してもらうときにはすでにインスリン製剤を使用していることを申し出て下さい。
- 4) 本剤の投与により低血糖が起こることがあります。本剤は血液中のインスリン濃度を約24時間、ほぼ一定に保つように作られており、低血糖が起こる時間帯は特定することができません。常日頃から低血糖に対する対応を心がけて下さい。

(3) 低血糖が起こったら

- 1) 低血糖になっても軽いうちは糖分を食べると治ります。いつも3～4個の袋入砂糖を携帯し、すぐその場でとることが必要です。がまんしてはいけません。ただし、ボグリボース(商品名:ベイスン等)、アカルボース(商品名:グルコバイ等)、ミグリトール(商品名:セイブル等)を併用している場合には、砂糖は不適切です。これらの薬剤は砂糖の消化や吸収を遅らせますので、必ずブドウ糖をとって下さい。
- 2) 十分注意していても、ときには意識を失うよ

うな強い低血糖が起こらないとも限りませんから、糖尿病であることを示す患者カードを身につけておく必要があります。

- 3) 低血糖を起こした場合は、必ず主治医に報告して下さい。
- 4) まれに血管内に注射針が入ることがありますが、実際に静脈内に注射されるのはごくまれです。血管内に注射すると吸収が早くなり、低血糖が早い時期に起こることがありますのでいつも十分注意して下さい。

(4) 高所作業や自動車の運転等危険を伴う作業に従事しているときに低血糖を起こすと事故につながります。特に注意して下さい。

5. その他の注意事項

(1) アレルギー症状

インスリン注射をした場所に発疹、はれ、かゆみが見られることがあります。そのときは主治医に連絡して下さい。

(2) 感染症

不潔な注射により注射部位に感染症を起こし、痛みと熱が出る場合があります。そのときはすぐ主治医に連絡して下さい。

(3) 注射部位の変化

インスリン製剤をいつも同じ場所に注射すると、皮膚がへこんだり逆にふくれてきたり、硬くなったりすることがあります。注射場所は主治医の指示どおり毎回変えて下さい(前回の注射場所より、少なくとも2～3cm離して注射して下さい)。皮膚がへこんだり逆にふくれてきたり、硬くなったりした場所への注射は避けて下さい。

- (4) 本剤は無色澄明な液剤です。白濁、変色、浮遊物が見られる場合は使用しないで下さい。
- (5) 未使用のミリオペン製剤のカートリッジの内側に気泡が見られることがあります。製剤の品質上問題ありませんが、空打ちの操作を行い、気泡を抜いてから使用して下さい。

お問合せ先

日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口

(一般の方・患者様向け)

0120-245-970/078-242-3499※1

<当社製品に関するお問い合わせ>

受付時間 月曜日～金曜日 8:45～17:30※2

<当社注入器に関するお問い合わせ>

受付時間 月曜日～土曜日 8:45～22:00

※1 フリーダイヤルでの接続が出来ない場合、このお電話番号にお掛けください。尚、通話料はお客様負担となります。

※2 祝祭日及び当社休日を除きます。